

アカデミック・フラット

Focusing on CO₂施用の方法

愛媛大学農学部多目的ホール
場所 オンライン
(配信元：愛媛大学・豊橋技術科学大学)

令和6年
2月5日(月)
15:00~17:10
参加費無料
(資料代別：1,000円)

開催趣旨

Society 5.0とSDGsを同時に達成しながら、若者が魅力を感じるスマート農業の地域実装を進める必要がある。デジタルトランスフォーメーション(DX)はその基盤となるものであり、わが国においても、農業生産現場におけるデータ収集と収集したデータに基づいた栽培労務管理の最適化が試みられている。特に、高度な環境調節を行う施設園芸においては、環境情報の取得と複数の生産者間で得られた環境情報を共有する例も増えてきた。施設園芸における昼間の環境制御の主目的は「光合成の最大化」である。これを達成するためには、第一ステップとして、水ストレスなどの光合成阻害要因を排除する必要があるが、それが達成された場合、第二ステップとして、施設園芸だからこそ実施可能な“CO₂施用”によって、光合成を促進することになる。本セミナーでは、CO₂施用の現状と展望、さらには、CO₂施用のターゲットである光合成の生産現場におけるリアルタイム計測の取り組み事例を紹介するとともに、科学的理解に基づいた適切なCO₂施用（特に、CO₂濃度制御）のあり方について議論する。

次第

- 総合司会：藤内直道(愛媛大学大学院農学研究科 助教)
- 15:00 開会の挨拶 有馬誠一(愛媛大学植物工場研究センター長、愛媛大学大学院農学研究科 教授)
- 15:05 セミナー趣旨「CO₂施用を正確に理解するために…」
高山弘太郎(愛媛大学大学院農学研究科教授、豊橋技術科学大学大学院工学研究科 教授)
- 15:15 講演「施設園芸におけるCO₂施用の現状と展望」
安武大輔(九州大学大学院農学研究科 准教授)
- 15:55 実例報告「生産現場における光合成計測の実際と栽培管理への活用状況」
藤内直道(愛媛大学大学院農学研究科 助教)
- 16:15 パネルディスカッション 生産者主体の勉強会と植物生体情報共有の意義
「誤解なきCO₂施用のために：ゼロ濃度差施用、局所施用 etc.」
※CO₂濃度に対する植物応答については次回以降のセミナーで扱います。 高山弘太郎、安武大輔、藤内直道
- 17:05 閉会の挨拶 羽藤堅治(愛媛大学植物工場研究センター 副センター長、愛媛大学大学院農学研究科 教授)
- 17:10 閉会

主催 一般社団法人日本施設園芸協会、農業DX共創会、愛媛大学植物工場研究センター、豊橋技術科学大学 先端農業・バイオリサーチセンター

後援 日本生物環境工学会 東海・四国支部、日本生物環境工学会生物生体計測部会、「知」の集積と活用の場合産学官連携協議会 スマート・メガスケール植物工場研究開発プラットフォーム、CIGR(国際農業工学会) Plant factory and intelligent greenhouse WG、愛媛大学 社会連携推進機構研究協力会スマート農業研究部会、植物生体情報DXによる栽培ノウハウの継承コンソーシアム(愛媛県デジタル実装加速化プロジェクト「トライアングルエヒメ」採択事業)

事務局 愛媛大学植物工場研究センター、豊橋技術科学大学 先端農業・バイオリサーチセンター

問い合わせ先

愛媛大学植物工場研究センター人材育成プログラム(担当：竹村・赤松・間宮)
☎ 089-946-9901
E-mail: zinzai@agr.ehime-u.ac.jp

申込みフォームURL

<https://receipt.agr.ehime-u.ac.jp/~sympo2/mpmailec/form.cgi>

参加申込フォームよりお申し込みください



資料を希望される方へ

折り返し資料代のお振り込み方法をメールにてご案内いたします。資料はお振り込み確認後、開催前日までにご連絡いたします。シンポジウムURLは、お申し込み後の自動返信メール内に記載してございます。

申込締切：令和6年2月5日(月) 正午 資料代お振り込み締切：令和6年2月2日(金) 正午